

第3章 生物育成に関する技術

○この指導計画例は、感染症対策を講じながら現行学習指導要領の内容を履修するための特例措置に基づく参考例です。
○現行学習指導要領の内容を履修するために、学校での授業と家庭学習とを関連付けることが不可欠です。

予定時数 特例的な対応時数の例

17 → 13

学習内容	教科書のページ	予定時数 →	【1】 【2】 の時数	【3】 の時数	学習活動例			指導上の留意点	学習指導要領	
					【1】学校の授業が必要な例	【2】感染症対策の観点から指導順序を変更することが考えられる例	【3】学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる例		現行	新
1. 簡単な野菜づくり	P148～151	3 →	2.5						C(2) 7	B(1) 71
①ベビーリーフを栽培しよう	P148～151	2	2			【実習が可能な時期、または実習に適する時期に】 ●教科書を見ながら、ペットボトルを加工してコンテナをつくらう。 ●教科書を見ながら、「たねまき」「発芽」「間引き」「収穫」まで育てみよう。 ●栽培を体験しながら、基礎的な管理技術の方法を身につけ、そのしくみを理解しよう。	【家庭で作業が可能ならば】 ●教科書を見ながら、ペットボトルを加工してコンテナを作らう。 ●教科書を見ながら、「たねまき」「発芽」「間引き」「収穫」まで育てみよう。	◇安全や健康に関して配慮が必要な作業は【1】や【2】による学校の授業で扱うようにする。 工具や道具を【3】学校の授業以外の場で使用する場合には、必ず安全に配慮するというを指示する。 ◇ワークシートは、教科書を見ながら「調べてまとめる」項目と、「各ページの『やってみよう』『調べよう』『考えよう』に取り組む（体験する、調べる、考える）」項目を、生徒の実態や家庭の実態に応じて用意する。 ◇次の対面授業時に提出させる。 ◇分量を多くしすぎないように注意する。		
2. 生物育成の技術	P152～155								C(1) 7	B(1) 71
②生物育成の技術が果たしてきた役割		1	0.5	(0.5)	(1.の実習と並行して) ●3年の学習の見通しをもと ●教科書を読み、生物育成の技術が果たしてきた役割や種類、成果や課題を知らう。		●生活や社会で利用されている「生物育成の技術」を調べてみよう。 ●P155「考えよう」について、教科書の説明や図を見ながら、調べてまとめよう。			
3. 花や野菜を栽培しよう	P156～187	10 →	8						C(2) 7	B(1)71 B(2)71
★教科書にある題材例から1つを選択して実践する。										
①環境と作物のかかわり	P156～158	1	0.5		●作物は、もともと原産地の環境に合った性質をもっていたことを知らう。 ●栽培する目的(目標)と、栽培する作物を決めよう。			◇安全や健康に関して配慮が必要な作業は【1】や【2】による学校の授業で扱うようにする。 工具や道具を【3】学校の授業以外の場で使用する場合には、必ず安全に配慮するというを指示する。		
②栽培の計画	P159, 186	1	0.5	(0.5)	●栽培に必要な環境を知らう。 ●栽培する目的(目標)と、それに沿った栽培計画を考えて、栽培計画表にまとめよう。	【実習が可能な時期に】 ●栽培に必要な資材や用具を準備しよう。	●栽培計画をじっくりと考えてまとめよう。			
③作物の栽培	P160～185, 187	7	6			【実習が可能な時期に】 ●栽培計画に沿い、目的(目標)に向かって作物を栽培しよう。 ●教科書を見ながら、管理の方法を身につけ、しくみや考え方を理解しよう。 ●P187のように栽培記録をかこう。	【家庭で栽培が可能ならば】 ●栽培計画に沿い、目的(目標)に向かって作物を栽培しよう。 ●教科書を見ながら、管理の方法を身につけ、しくみや考え方を理解しよう。 ●P187のように栽培記録をかこう。	◇安全や健康に関して配慮が必要な作業は【1】や【2】による学校の授業で扱うようにする。 工具や道具を【3】学校の授業以外の場で使用する場合には、必ず安全に配慮するというを指示する。 ※生活や社会における問題を解決するための栽培計画を考える学習が望ましいが、今回の措置で時数を十分に確保するのが難しい場合は、教科書のモデル通りに計画したと仮定して、収穫後に「計画を立てる考え方やポイントを理解する」学習や、「生物育成の技術によって問題を解決するアイデアを考える」学習等を位置づけて、計画に関する学習を補う方法が考えられる。		
④作物の収穫		1	1			【実習が可能な時期に】 ●栽培した作物を収穫して、収穫量や品質をまとめよう。 ●実習をふり返り、上手くいったことや上手くいかなかったことをまとめ、その原因や理由を考えよう。 ●使い終わった用具や土などを片づけよう。		◇ワークシートは、栽培計画表と栽培記録表を用意する。		
4. 動物を飼育する技術	P188～195	2 →	1						C(1) 7	B(1) 71
①普段の食事をふり返ろう ②飼育や養殖	P188～195	2	1	(1)	●普段の食事をふり返り、畜産と養殖の実情を知らう。 ●家畜や水産生物の生育環境と管理方法、工夫を調べよう。		●動物の飼育や、水産生物の養殖の方法や工夫について、教科書から調べてまとめよう。			
5. 生物育成と環境・社会とのつながり	P196～199	2 →	1.5						C(1) 1	B(3) 71
①生物資源生産の未来	P196	1	0.5	(0.5)	●教科書を読み、生物育成や食糧生産に関する問題と現実について知らう。		●P196, 197「考えよう」について、教科書の説明や図を見ながら、自分の考えをまとめよう。	◇話し合いができない場合や、学校の授業以外の場での学習として実施した場合でも、生徒がまとめたものを共有したり、教師が認めたりする場を設定することが望ましい。		
②栽培に必要な環境	P197～198				●化学肥料や農薬、植物工場などの栽培技術について、プラス・マイナスを理解しよう。		●P197, 198「調べよう」について、教科書の説明や図を見ながら、調べてまとめよう。 ●P198「考えよう」について、教科書の説明や図を見ながら、自分の考えをまとめよう。			
③生物育成と環境・社会	P199	1	1		【話し合い活動が可能な場合】 ●生物育成に関する技術の進歩に伴うプラス・マイナスを話し合ってみよう(技術の評価)。 ●プラス・マイナスを踏まえた、生物育成に関する技術のよりよい活用について話し合おう。 ●生物育成に関する技術のよりよい活用について、自分の考えをまとめよう。 ●3年間の学習をふり返り、自身の成長を見つけよう。	【話し合い活動ができない場合】 ●教科書を読み、生物育成換に関する技術の進歩に伴うプラス・マイナスを考えてまとめよう(技術の評価)。 ●生物育成に関する技術のよりよい活用について、自分の考えをまとめよう。 ●3年間の学習をふり返り、自身の成長を見つけよう。				